

病 院 事 業 会 計

1 事業の概況について

(1) 業務の実績

当年度の業務の実績は、次のとおりである。

当年度における延患者数は96,678人で、前年度に比較して3,852人(4.1%)増となり、一日平均では16.3人(4.6%)増加している。

この増加の要因としては、外科診療の常勤医師2名体制により、外科手術の件数及び入院患者が増加していることに加え、内科でも外来患者数が増加したことが主なものである。

入院延患者数を前年度と比較すると、内科で360人(2.3%)、外科で2,359人(62.5%)増加しており、全体では2,344人(11.0%)増加している。

外来延患者数は、主に内科1,057人(4.2%)、外科829人(9.9%)が増加し、全体で1,508人(2.1%)増加している。

診療科目別患者数の主な状況は、産婦人科が前年比983人(16.6%)減少したものの、内科で1,417人(3.5%)、外科では3,188人(26.2%)増加している。

業 務 の 実 績

(単位：人・日・%)

区 分		平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年度対比		
					差引増減	増減率	
患 者 数	入 院 (本院)	21,439	21,224	23,568	2,344	11.0	
	外 来	本 院	53,293	55,077	56,598	1,521	2.8
		尾岱沼診療所	5,869	5,559	5,493	△ 66	△ 1.2
		西春別診療所	10,775	10,966	11,019	53	0.5
		計	69,937	71,602	73,110	1,508	2.1
	入院外来合計	91,376	92,826	96,678	3,852	4.1	
一 日 平 均 患 者 数	入 院 (本院)	58.7	58.1	64.4	6.3	10.8	
	外 来	本 院	217.5	224.8	232.9	8.1	3.6
		尾岱沼診療所	24.6	23.8	23.7	△ 0.1	△ 0.4
		西春別診療所	44.9	45.7	47.7	2.0	4.4
		計	287.0	294.3	304.3	10.0	3.4
	入院外来合計	345.7	352.4	368.7	16.3	4.6	
診 療 日 数	本 院 入 院	365	365	366	1	0.3	
	本 院 外 来	245	245	243	△ 2	△ 0.8	
	尾岱沼診療所	239	234	232	△ 2	△ 0.9	
	西春別診療所	240	240	231	△ 9	△ 3.8	
病 床 数 (床)		84	84	84	0	0.0	
病 床 利 用 率		69.9	69.2	76.7	7.5	10.8	
年鑑指標(病床利用率)		67.4					

※病床利用率(%) = 年延入院患者数 / 年延病床数 × 100

※年鑑指標：平成27年公表・平成26年度地方公営企業年鑑、病床数50床以上100床未満の同規模事業体の平均値 (以下同じ。)

診療科目別患者数の推移

(単位：人・%)

区 分		平成25年度	平成26年度	平成27年度	対前年度		
					差引増減	増減率	
入院	本院	内科	17,335	15,616	15,976	360	2.3
		外科	2,286	3,773	6,132	2,359	62.5
		小児科	677	816	750	△ 66	△ 8.1
		産婦人科	1,141	1,019	710	△ 309	△ 30.3
	計	21,439	21,224	23,568	2,344	11.0	
外来	本院	内科	25,550	25,198	26,255	1,057	4.2
		外科	7,027	8,384	9,213	829	9.9
		小児科	8,889	8,913	9,124	211	2.4
		産婦人科	4,185	4,920	4,246	△ 674	△ 13.7
		耳鼻咽喉科	1,354	1,434	1,458	24	1.7
		皮膚科	2,003	1,951	2,077	126	6.5
		精神科・ 心療内科	4,285	4,277	4,225	△ 52	△ 1.2
	計	53,293	55,077	56,598	1,521	2.8	
	尾岱沼診療所	5,869	5,559	5,493	△ 66	△ 1.2	
	西春別診療所	10,775	10,966	11,019	53	0.5	
	計	16,644	16,525	16,512	△ 13	△ 0.1	
	外来計	69,937	71,602	73,110	1,508	2.1	
	入院外来合計		91,376	92,826	96,678	3,852	4.1

検査・その他の件数

(単位：件)

区 分	平成25年度	平成26年度	平成27年度
臨床検査	192,370	195,506	200,924
レントゲン	15,200	15,357	15,648
内視鏡	2,153	2,175	2,155
手術	169	204	227
分娩	132	112	106
理学療法	5,166	6,855	7,916
調剤	17,366	17,556	15,980
給食 (うち流動食の経管薬)	57,720 (5,040)	58,957 (3,449)	52,212 (4,071)

職 員 数				(単位：人)			
区 分		平成25年度	平成26年度	平成27年度	備 考		
医 師		7	7	6			
医療技術員	薬 剤 師	2	3	3			
	放 射 線 技 師	3	3	3			
	検 査 技 師	3	3	3			
	栄 養 士	1	2	2			
	理 学 療 法 士	2	2	3	1名増		
	作 業 療 法 士	0	1	1			
計		11	14	15			
看護職員	看 護 師	41	40	44	4名増		
	助 産 師	11	10	10			
	准 看 護 師	8	8	9	1名増		
	計	60	58	63			
事 務 職 員		9	10	10			
小 計		87	89	94	5名増		
定 数 外 職 員	常 勤	嘱 託 職 員	医 師	4	4	4	
			看 護 師	3	3	2	1名減
			准 看 護 師	4	3	3	
			看 護 補 助 員	13	14	13	1名減
			助 産 補 助 員	2	2	2	
			事 務 職 員	0	0	0	
			そ の 他	3	4	5	1名増
	計	29	30	29	1名減		
	非 常 勤	非 常 勤 職 員	臨 時 職 員	1	0	0	
			医 師	1	1	1	
			看 護 師	4	8	9	1名増
			准 看 護 師	4	6	7	1名増
			助 産 補 助 員	0	0	0	
助 手			7	6	4	2名減	
臨 時 事 務 員	1	1	1				
計	17	22	22				
小 計		47	52	51	1名減		
合 計		134	141	145	4名増		

職員数は、前年度に比べ4名増の145名である。

(2) 建設改良事業の状況

当年度は、医療機器及び器具・備品の購入している。

ア 医療機器購入費

・超音波画像診断装置	6,998,400 円
・移動型デジタル式汎用一体型X線透視装置	6,998,400 円
・血液浄化装置	6,350,400 円
・上部消化管汎用ビデオスコープ	2,646,000 円
・上部消化管経鼻ビデオスコープ	2,559,600 円
・手術用コードレスドライバ	2,268,000 円
・病棟用生体情報モニタ	1,706,400 円
・ベットサイドモニタ	1,706,400 円
・下肢牽引装置	1,630,800 円
・その他 (9件)	4,047,080 円
計	36,911,480 円

イ 器具・備品購入費

・レイヤー3スイッチ	666,360 円
・真空包装機	550,800 円
・起債管理システム	432,000 円
・その他 (6件)	968,760 円
計	2,617,920 円

2 予算の執行状況について

(1) 収益的収支（消費税及び地方消費税を含む）

当年度の予算執行状況は、次表のとおりである。

収益的収入

(単位：円・%)

区分 科目	予算額		決算額		増減額 (B) - (A)	執行率 (B) / (A)
	金額 (A)	構成比	金額 (B)	構成比		
病院事業収益	2,173,362,000	100.0	2,044,589,584	100.0	△ 128,772,416	94.1
医業収益	1,256,905,000	57.8	1,244,089,446	60.8	△ 12,815,554	99.0
医業外収益	916,447,000	42.2	800,500,138	39.2	△ 115,946,862	87.3
特別利益	10,000	0.0	0	0.0	△ 10,000	0.0

収益的支出

(単位：円・%)

区分 科目	予算額		決算額		不用額 (A) - (B)	執行率 (B) / (A)
	金額 (A)	構成比	金額 (B)	構成比		
病院事業費用	2,184,888,000	100.0	2,291,620,427	100.0	△ 106,732,427	104.9
医業費用	2,128,615,000	97.4	2,089,758,708	91.2	38,856,292	98.2
医業外費用	51,263,000	2.4	83,751,575	3.7	△ 32,488,575	163.4
特別損失	10,000	0.0	118,110,144	5.2	△ 118,100,144	1,181,101.4
予備費	5,000,000	0.2	0	0.0	5,000,000	0.0

病院事業収益は、予算執行率が94.1%で予算額に対し決算額は128,772千円下回っている。

病院事業費用は、過年度損益修正損118,100千円を計上したことにより、予算額に対し決算額は106,732千円上回っている。

(2) 資本的収支（消費税及び地方消費税を含む）

当年度の予算執行状況は、次表のとおりである。

資本的収入

(単位：円・%)

区分 科目	予算額		決算額		増減額 (B) - (A)	執行率 (B) / (A)
	金額 (A)	構成比	金額 (B)	構成比		
資本的収入	104,953,000	100.0	104,700,000	100.0	△ 253,000	99.8
出資金	74,153,000	70.7	73,900,000	70.6	△ 253,000	99.7
補助金	30,800,000	29.4	30,800,000	29.4	0	100.0

資本的支出

(単位：円・%)

区分 科目	予算額		決算額		翌年度繰 越額(C)	不用額 (A) - (B) - (C)	執行率 (B) / (A)
	金額 (A)	構成比	金額 (B)	構成比			
資本的支出	172,000,000	100.0	171,491,990	100.0	0	508,010	99.7
建設改良費	40,037,000	23.3	39,529,400	23.1	0	507,600	98.7
企業債償還金	131,963,000	76.7	131,962,590	76.9	0	410	100.0

当年度の資本的収入は、予算額に対して決算額は253千円下回っている。

資本的支出は、予算額に対し決算額は508千円の不用額を生じている。これは、建設改良費における医療機器購入などの執行残によるものである。

資本的収支の不足額 66,792 千円の補てん状況は、次表のとおりである。

資本的収支における不足額の補てん状況

(単位：円)

区 分	繰越額 (A)	当年度発生額 (B)	当年度補てん額 (C)	27年度末残高 (翌年度繰越額) (A) + (B) - (C)
当年度分消費税及び地方 消費税資本的収支調整額	0	2,928,102	2,928,102	0
損益勘定 留保資金	283,310,771	0	63,863,888	219,446,883
過年度分				
当年度分	0	134,480,487	0	134,480,487
純利益 (△損失)	0	△ 216,770,865	0	△ 216,770,865
合 計	283,310,771	△ 79,362,276	66,791,990	137,156,505
その他未処分利益剰余金変動額	0	0	0	0
未処理欠損金	△ 1,740,171,273	△ 216,770,865	0	△ 1,956,942,138

当年度分損益勘定留保資金発生額の内訳は、減価償却 133,424,393 円 (減価償却費 208,690,932 - 長期前受金戻入額 75,266,539) 及び資産減耗費 1,056,094 円である。

3 経営成績について (消費税及び地方消費税を除く)

病院事業の経営成績の推移は、別表(1)のとおりである。

当年度は、総収益 2,035,609 千円に対し総費用は 2,252,380 千円となっている。

差引き 216,771 千円が当年度の純損失となり、前年度と比較して当年度純損失は 196,146 千円(951%)の大幅増となっている。

経営成績

(単位：円・%)

区 分	総収益 (A)		総費用 (B)		純損益 (A) - (B)		総収益対総 費用比率A/B
	金額	増減率	金額	増減率	金額	増減率	
平成25年度	1,836,717,708	△ 3.7	1,893,834,076	△ 21.6	△ 57,116,368	△ 88.8	97.0
平成26年度	2,080,582,131	13.3	2,101,206,624	10.9	△ 20,624,493	△ 63.9	99.0
平成27年度	2,035,609,259	△ 2.2	2,252,380,124	7.2	△ 216,770,865	951.0	90.4

ア 収 益

総収益は、前年度と比較して 44,973 千円 (2.2%) の減となっている。

医業収益では主に、入院収益で 60,142 千円 (11.3%)、外来収益で 37,127 千円 (8.4%) の増加となっている。全体でも 95,773 千円 (8.4%) 増加している。

医業外収益では、他会計からの補助金が4,512千円(5.5%)増加しているが、減価償却費を補てんするための長期前受金戻入額が122,058千円(61.9%)と大きく減少となっている。

イ 費 用

総費用は、前年度と比較して 151,174 千円 (7.2%) 増加している。

これは、医業費用で 88,221 千円 (4.5%) 増加したことに加え、過年度損益修正に伴い特別損失が 63,040 千円 (114.5%) 増加したことが主な要因となっている。

患者一人当たり医業収益と医業費用

(単位：円・%)

区 分	算 式	平成25年度	平成26年度	平成27年度	前年度対比	
					差引増減	増 減 率
医業収益	医業収益/年入院 ・外来延患者数	11,928	12,283	12,784	501	4.1
	医業費用/年入院 ・外来延患者数	20,090	21,199	21,267	68	0.3

(1) 施設の利用状況

病院事業の入院・外来収益を分析すると次のようになる。

入院収益

項 目	平成25年度	平成26年度	平成27年度
入 院 収 益 (千円)	499,477	532,281	592,423
1 日 平均 入院 患者 数 (人)	58.7	58.1	64.4
入院患者1人1日当たり収入 (円)	23,298	25,100	25,100

外来収益

項 目	平成25年度	平成26年度	平成27年度
外 来 収 益 (千円)	426,658	441,548	478,675
1 日 平均 外来 患者 数 (人)	287.0	294.3	304.3
外来患者1人1日当たり収入 (円)	6,101	6,168	6,685

(2) 人件費と労働生産性

病院事業の給与費は、別表(2)のとおりで、総費用に対する割合は依然として大きく、当年度も増となっている。

病院事業の労働生産性を示す指標を算出すると次のようになる。

職員1人当たり患者数・医業収益

項 目		平成25年度	平成26年度	平成27年度	年鑑指標	
職員一人当たり患者数	医 師	入 院 (人/日)	4.8	4.4	5.1	8.1
		外 来 (人/日)	15.7	14.8	15.7	16.1
	看 護 師	入 院 (人/日)	0.7	0.7	0.8	1.1
		外 来 (人/日)	2.4	2.5	2.5	2.2
	全 職 員	入 院 (人/日)	0.6	0.6	0.7	—
		外 来 (人/日)	2.1	2.1	2.2	—
職員1人当り医業収益	医 師 (千円)	207,793	201,830	230,542	310,407	
	看 護 師 (千円)	31,523	33,491	37,006	43,027	
	全 職 員 (千円)	27,922	28,674	31,887	—	

この表から、今後も広く地域住民との信頼関係を築きながら、継続的な医療提供が必要である。

病床100床あたり職員数

(単位：人)

職 務	平成25年度	平成26年度	平成27年度	年鑑指標
医 師	15.5	15.7	15.1	7.4
看 護 部 門 職 員	96.4	95.2	95.2	58.7
薬 剤 部 門 職 員	2.4	3.6	3.6	3.1
X線・検査部門職員	7.1	7.1	7.1	6.4
給 食 部 門 職 員	1.2	2.4	2.4	3.9
事 務 部 門 職 員	10.7	11.9	10.7	10.8
そ の 他 部 門 職 員	4.8	6.0	7.1	11.1
全 職 員	138.1	141.9	141.3	101.4

職員の平均給与を年鑑指標と比較すると次表のようになり、平均給与は医師が非常に高いことがわかる。

職員の平均給与

項目	医 師				看 護 師			
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	年鑑指標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	年鑑指標
基本給 (円)	1,241,216	1,185,214	1,215,474	690,069	267,690	285,802	311,015	308,700
手 当 (円)	1,601,081	1,611,345	1,534,303	963,693	151,430	160,691	176,972	160,482
平均年齢(才)	49.9	50.7	50.8	50.0	36.3	37.9	38.3	44.0
平均勤続年数(年)	22.6	22.7	24.2	22.0	11.5	14.8	14.1	20.0

項目	准 看 護 師				事 務 職 員			
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	年鑑指標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	年鑑指標
基本給 (円)	318,583	337,542	383,500	313,849	315,657	315,367	324,580	332,265
手 当 (円)	133,823	182,521	218,781	158,730	157,259	155,742	162,496	164,465
平均年齢(才)	50.4	54.9	55.9	50.0	42.2	40.8	40.2	45.0
平均勤続年数(年)	27.8	31.6	32.6	27.0	20.2	19.0	18.4	21.0

項目	医療技術者				全 職 員			
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	年鑑指標	平成25年度	平成26年度	平成27年度	年鑑指標
基本給 (円)	315,985	299,287	315,611	306,272	355,296	367,195	383,906	338,642
手 当 (円)	159,439	205,165	214,567	151,301	257,639	283,946	281,650	220,181
平均年齢(才)	42.4	41.1	41.3	43.0	40.1	41.3	42.7	45.0
平均勤続年数(年)	16.6	16.8	17.1	18.0	14.5	17.7	18.0	20.0

(3) 薬品費について

病院事業の薬品費は、前年度と比較すると13,547千円(11.4%)増加しているが、その要因は、診療体制が整ったことにより高度な医療が増加したことに加え、入院患者数の増加が主なものである。

患者1人1日当たり薬品費

項 目		平成25年度	平成26年度	平成27年度
患者1人1日 当たり薬品費	投薬 (円)	525	483	541
	注射 (円)	678	797	828
	計	1,203	1,280	1,369

(4) 支払利息

病院事業の支払利息は、別表(2)のとおりで、当年度の総費用に占める割合は前年比0.2ポイント減少している。

医業収益に対する割合でも、前年度と比較すると0.3ポイント減少している。

(5) 他会計からの補助金・負担金及び出資金

一般会計からの補助金・負担金及び出資金は、次のとおりである。

一般会計からの補助金・負担金及び出資金

(単位：円)

予算	区 分		平成25年度	平成26年度	平成27年度	備 考
3 条	医業外 収 益	一般会計補助金	83,150,000	82,327,000	86,839,000	交付税等交付基準分(一部、国から一般会計に交付税の措置あり)
		一般会計 負 担 金	基準内	231,025,928	200,823,944	
			基準外	414,283,000	443,500,467	417,642,000
	小 計	728,458,928	726,651,411	708,334,000		
4 条	資 本 収 入	一般会計出資金	58,279,000	60,775,000	73,900,000	交付税等交付基準分(一部、国から一般会計に交付税の措置あり)
	小 計	58,279,000	60,775,000	73,900,000		
合 計			786,737,928	787,426,411	782,234,000	

公立病院として、その性質上不採算となる政策的医療を実施するため、一般会計が負担する経費として補助金、負担金及び出資金の形で繰入が行われている。一般会計の負担増とならぬよう経営改善へ向け努力を続けており、前年度より5,192千円少ない782,234千円の繰入となっている。

一般会計以外からの補助金

(単位：円)

予算	区 分		平成25年度	平成26年度	平成27年度	備 考
3 条	医業外 収 益	道補助金	693,000	625,000	856,000	院内保育所運営費補助金
		国庫補助金	0	0	0	
4 条	資本的 収 入	国庫補助金	14,300,000	0	30,800,000	
	資本的 支 出	国庫補助金返還金	0	0	0	
合 計			14,993,000	625,000	31,656,000	

4 財政状態について

病院事業の各年度の財政状態及び資本的収支の状況は、それぞれ別表(3)、別表(4)のとおりである。

(1) 資産の状況

当年度の資産総額は3,280,525千円で、前年と比較して216,715千円(6.2%)減少している。内訳は、固定資産では主に減価償却により173,146千円(5.7%)の減、流動資産でも43,570千円(9.8%)減少している。

(2) 負債及び資本の状況

ア 負債

当年度の負債総額は、前年度と比較すると73,845千円減少している。内訳は、繰延収益(長期前受金)は73,644千円(6.8%)増加したが、固定負債(企業債)で154,883千円(8.2%)減少したことが主な要因となっている。

イ 資本

当年度の資本総額は、前年度と比較すると73,900千円(3.7%)増加しているが、これは一般会計からの出資金を自己資本金に繰入したことによる増額である。

(3) 企業債の状況

当年度末現在の未償還元金は1,882,638千円である。

当年度償還元金は131,963千円で、前年度と比較すると23,745千円(21.9%)増加している。

企業債の借入及び償還状況

(単位：円・%)

区 分	平成25年度	平成26年度		平成27年度		
	金 額	金 額	増減率	金 額	増減率	
借 入 金	48,200,000	55,100,000	14.3	0	△ 100.0	
償 還 元 利 計	117,339,272	141,846,571	20.9	164,470,361	15.9	
内訳	償 還 元 金	82,809,166	108,218,064	30.7	131,962,590	21.9
	償 還 利 息	34,530,106	33,628,507	△ 2.6	32,507,771	△ 3.3
年度末現在未償還元金	2,067,719,153	2,014,601,089	△ 2.6	1,882,638,499	△ 6.6	

(4) 資金の運用及び財務状況

資金の動きと資金繰りの状況及び支払能力など財務活動を明らかにするため、比較貸借対照表を基に当年度の資金運用表及び正味運転資本の増減明細表を作成すると、次のようになる。

資 金 運 用 表

(単位：円)

使 途		源 泉	
項 目	金 額	項 目	金 額
機 械 備 品 の 取 得	36,601,298	機 械 備 品 除 却	1,056,094
企 業 債 償 還 金	131,962,590	国 庫 補 助 金	30,800,000
当 年 度 経 常 損 失	98,660,721	一 般 会 計 出 資 金	73,900,000
長 期 前 受 金 戻 入	75,266,539	減 価 償 却 費	208,690,932
		正味運転資本の減少	28,044,122
合 計	342,491,148	合 計	342,491,148

正味運転資本増減明細表

(単位：円)

増 加		減 少	
項 目	金 額	項 目	金 額
未 収 金 の 増 加	46,587,981	現 金 預 金 の 減 少	87,088,972
未 払 金 の 減 少	18,135,173	貯 蔵 品 の 減 少	3,068,666
預 り 金 の 減 少	586,607	引 当 金 の 増 加	3,196,245
正味運転資本の減少	28,044,122		
合 計	93,353,883	合 計	93,353,883

これらの表から、当年度の資金の使途は、器械備品の取得、企業債償還、当年度純損失及び長期前受金戻入で合計342,491千円である。一方、資金の源泉の主なものは国庫補助金、一般会計出資金、減価償却費など314,447千円で、当年度の財政状況は前年度より正味運転資本(流動資産－流動負債)が28,044千円減少している。この正味運転資本の減少要因は、主に現金預金の減少によるものである。

主 な 財 務 比 率 の 推 移

比 率 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	年鑑指標
流 動 比 率 (%)	488.0	151.9	133.6	232.9
自 己 資 本 構 成 比 率 (%)	47.8	56.7	38.2	43.4
固 定 資 産 対 長 期 資 本 比 率 (%)	91.6	95.3	96.6	85.3

なお、財務比率は別表の(5)のとおりである。

(5) 未収金などについて

当年度の未収金は、次表のとおりである。なお、過年度分未収金を除く 231,444 千円は、主に3月分として発生したものである。

(単位：円・%)

未 収 金 残 高					左記のうち過年度分未収金				
25年度	26年度	27年度	前年度対比		25年度	26年度	27年度	前年度対比	
			差引増減	増減率				差引増減	増減率
(468件)	(426件)	(465件)	(39件)	(9.2)	(114件)	(133件)	(143件)	(10件)	(7.5)
240,684,526	190,526,435	237,114,416	46,587,981	24.5	6,474,600	5,419,150	5,670,130	250,980	4.6

5 建設改良事業について

当年度の建設改良事業（建設改良費）は、医療器械購入に36,911千円、器具及び備品購入などに2,618千円、合わせて39,529千円となっている。

6 経営指標について

経営成績や財政状態を示す主な経営指標の推移は、別表（5）のとおりである。

以上が、審査結果の概要である。

7 審査意見

次に審査意見を述べる。

(1) 業務の実績について

当年度における入院外来延患者数は、前年度に比べ3,852人(4.1%)増加している。

これは、夜間診療、外科診療の充実や医師確保に係る要請活動など、様々な努力が患者数の増加に繋がったものと思われる。

医師の偏在が顕著な中で、地方の病院はそのあおりを受け医師確保に奔走している構図が長く続いている。このような状況下ではあるが、患者数の増加は収入に直結することから常勤医師の的確な配置は必須であり、今後においても更なる工夫を重ね、患者数の増加に努められたい。

(2) 予算執行状況について

収益的収支及び資本的収支の予算執行状況は、それぞれおおむね適正に執行されているが、収益的支出では、平成26年度に施行された公営企業会計の改正に伴う移行処理の不備が明らかになり、過年度損益修正損を計上している。

この支出は、現金支出を伴わないものではあるが、今後は細心の注意を払い、適正な経理処理に努められたい。

(3) 経営成績について

医療を取り巻く状況は、一層厳しくなることが予想され、医業収益の大幅な増収も見込めないものと思われることから、より効率的・効果的な病院経営を推進し、経営成績の向上に努められたい。

(4) 財政状態について

貸借対照表から主要な財務比率などをみると、当年度の純損失が前年度と比較して大きく増加した要因は、予算執行で述べたとおりである。採算性(総資本利益率、自己資本利益率など)も同様に悪化し厳しい状況にある。

今後においても厳しい財政状況が続くと見込まれることから、財政運営の健全化に向けて、より一層の努力を図りたい。

(5) 未収金などについて

私法上の債権である病院の治療代・調剤費など(消滅時効期限3年＝民法170条)の不納欠損処分は、地方自治法上の債権とは異なり期限が来れば消滅時効が自動的に成立するわけではないので、「時効の援用＝民法145条」(時効の申し出)がなされるか、債権者側が債権放棄をしない限り、私法上の金銭債権は永久に残ることになる。

今後も別海町債権管理条例に基づき、統一的・効率的な債権管理のもと、未収金の回収と縮減に一層努力されたい。

8 むすび

町立病院の運営は、診療所2カ所と合わせて、町民の健康と生命を守るため一次医療の安定的かつ継続的な安心と信頼の医療提供の役割を担っている。その実情は、自治体病院特有の政策医療としての「公共性」に重点をおけば「経済性」が低下し「経済性」に軸足を移せば「公共性」がおろそかになるなど、理想の実態とはかけはなれている。

一方、近年の医師の専門医志向、都市志向や勤務医の過酷な勤務体制、医科大学における教室(医局)の医師派遣機能の低下などによる医師不足に伴い、診療体制の縮小を余儀なくされるなど、その経営環境や医療提供体制の維持が極めて厳しくなっている。

このような中、当町においては必要な医療提供体制確保や入院・外来患者の誘引を図るため、自らに期待されている役割を今一度明確にし、財務内容の改善を進める経営の効率化などにより、安定的かつ自立的な経営の下で良質な医療を継続して提供できる診療体制が、構築されることを望むものである。

なお、根室保健医療福祉圏域連携推進会議に町立別海病院も自治体医療機関として名を連ねており、今後の総合的かつ一体的な保健医療福祉の施策に期待するとともに注視するものである。